

**臨床福祉専門学校**  
**平成29年度 第2回 学校関係者評価委員会 議事録**

日時：平成30年3月17日（土）15：00～16：00

場所：臨床福祉専門学校 202 教室

出席委員及び所属

委員長：相原 実（地域代表）

徳永 正（非常勤講師代表）

矢内 崇博（業界関係者・同窓会長）

澤田 光毅（卒業生代表）

全徳 正康（校長補佐） 石垣 栄司（教務部長）

萬崎 保志（事務部長） 記録：樋口 豊朗（事務局 教務課）

欠席：馬目 雪枝（学生委員長）

**1. 敬心学園全体の現時点における再編計画について（学校長）**

専門職大学の認可申請は現在のところ、順調に進んでいる。正式な認可は来年度の秋前後に降りる予定。改めての周知となるが、それに関わる定員規制の兼合いで、本校の理学療法学科は昼夜間ともに、平成30年度の入学生を最後に募集を停止する事となる。

本会議の場において、そういった背景の下、学内運営上、如何に重点的評価項目を絞っていくか、前回からの継続の議題として、検討していく事とする。

**2. 重点項目について（意見交換）**

第一回目の会議において、自己評価報告書の中でも、今後の本校の取り組みとして重点項目を絞り込むという事で同意が得られた。重点項目の中で感想・要望等の意見交換を行った。

（相原）項目 4-15 「卒業生の社会的評価について」

卒業生の卒後の実態調査や研究・業績の成果について、学校として把握はできてないようだが、そもそも大項目である社会的評価という点で、それを組織的に管理する事が可能なのか？

（矢内）卒業生が所属する、職能団体で定める認定（認定/専門理学療法士）を受けられれば、基準の一つと成りえる可能性があるが、卒業生の中でもそれぞれの協会に所属する割合が約7割前後、かつ、それを受けたから社会的評価となるかどうかは疑問。

（澤田）STも同様、認定言語聴覚療法士の認定を得たからと言って就職に有利であるとか、そこまでの評価には至らない。

(石垣) 学校としても、卒後教育の場において、情報の収集は行えるが学校単体の組織としては限界がある。卒業して1回は必ず学校に来る必要がある。同窓会と学校の関わり方を見つめ直し、卒業生に参加してもらうための取り組みが必要。

(徳永) 項目 4-13「就職率について」  
就職活動における、内定・就職先を把握するための体制が整っていないと思われる。

(石垣) 特に国家試験後（卒業後）の就職活動に関しては、把握が難しい事が現実としてある。

(矢内) 同窓会の取り組みが鍵となる可能性もあり、今後の大きな課題となる。学内でも再度慎重に振り返りをお願いしたい。

(澤田) 5-19「学生生活について」  
時期的に集団生活の場において危惧されるインフルエンザ対策等組織的に検討する必要がある。

### 3. 次年度以降の委員会の取り組みについて

専門職大学設立の背景の元、今後の方針を委員に再度共有し、同意された。本日意見交換として話題になった項目を中心に、来年度自己評価をし、再評価して頂く事とする。具体的な項目は

- ・ 4-13 就職率
- ・ 4-15 卒業生の社会的評価
- ・ 5-16 就職等進路
- ・ 5-18 学生相談
- ・ 5-19 学生生活 とする。

以上